

2024(令和6)年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



2025(令和7)年6月23日
NPO法人北海道遺産協議会

2024(令和6)年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計22件879万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	旭橋	旭川市	旭橋を語る会	旭橋アーカイブ基盤整備事業	500,000
2	雨竜沼湿原	雨竜町	雨竜町・雨竜町観光協会	令和6年度北海道遺産登録20周年事業及び令和7年度ラムサール条約登録20年に向けた事業	500,000
3	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群、オホーツク沿岸の古代遺跡群	函館市、伊達市など	北の縄文道民会議	世界遺産登録3周年記念『縄文雪まつり2025』の開催	500,000
4	函館西部地区の街並み	函館市	特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会	函館野外劇	500,000
5	仙台藩白老元陣屋	白老町	白老町	北海道遺産仙台藩白老元陣屋魅力向上事業	500,000
6	下の句かるた	北海道各地	全日本下の句歌留多協会	北海道遺産「下の句かるた」の普及、競技人口拡大の宣伝活動	500,000
7	天塩川	流域市町村	天塩川de水切り北海道大会実行委員会	天塩川de水切り北海道大会で「天塩川と地域の共生」「地域活性化」	500,000
8	函館西部地区の街並み	函館市	NPO法人 はこだて街なかプロジェクト、ECO断熱改修によるカーボンニュートラル推進協議会	函館西部地区街並み保全活用プロジェクト	500,000
9	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻島	利尻しまじゅうエコミュージアム	「利尻島のルーツを巡る着地型体験プログラム実証実験」と「利尻島の漁業遺産群と生活文化」PRイベントの実施	500,000
10	函館西部地区の街並み	函館市	一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン	旧開拓使函館支庁書籍庫の公開展示	450,000
11	しかべ間歇泉	鹿部町	株式会社シカベンチャー	北海道遺産「しかべ間歇泉」及び「道の駅しかべ間歇泉公園」PRイベント	440,000
12	サケの文化	石狩市	一般社団法人石狩シェアハビシティ計画	北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト	400,000
13	天塩川、松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	流域市町村	音威子府村若手まちづくりグループ nociw *	武四郎ゆかりの地を結ぶ天塩川流域連携促進プロジェクト	400,000
14	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	東アジア雪合戦普及活動事業	400,000
15	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	縄文DOHNAN プロジェクト	ご当地カッター第4弾「縄文を通じて地域を知る！縄文かるた」を活用したかるた大会の実施	300,000
16	根釧台地の格子状防風林	中標津町など	中標津町	「根釧台地の格子状防風林」周知事業	300,000
17	野付半島と打瀬舟	別海町	野付半島自然環境保全協会	野付半島の代表的な「植物」「哺乳類」「鳥類」の常設展示パネルの作成	300,000
18	稚内港北防波堤ドーム他道北、留萌のニシン街道他留萌管内、野付半島と打瀬舟他道東、オホーツク沿岸の古代遺跡群、上ノ国の中世の館他道南	北海道各地	北海道中央バス(株)	(北海道遺産協議会選定)遺産を訪ねるツアー 《なかなか訪れることの少ないところの貴重遺産に出会うツアー》	300,000
19	小樽の鉄道遺産	小樽市	NPO法人北海道鉄道文化保存会	鉄道施設への道案内表示の制作	300,000
20	増毛山道と濃屋山道	増毛町、石狩市	特定非営利活動法人 増毛山道の会	増毛山道の歴史や遺産の広報・ツアー・維持管理活動	300,000
21	空知の炭鉱関連施設と生活文化、小樽みなとと防波堤、小樽の鉄道遺産、北海道の集治監、江別のれんが	空知地域、小樽市、月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市	炭鉄港推進協議会	日本遺産「炭鉄港」構成文化財 江別市追加に係るPRツールの整備	278,300
22	モール温泉	音更町	一般社団法人音更町十勝川温泉観光協会	北海道遺産「モール温泉」をPRするためのパンフレット作り	130,000

1. 旭橋アーカイブ基盤整備事業

- 実施主体：旭橋を語る会
- 実施団体URL：<https://note.com/ebisuke> (旭橋を語る会Webページ)
- 助成額：500,000円

一活動内容一

旭橋を語る会は来年度に創立20周年を迎えるが、会員の高齢化が進み、旭橋建設前の旭川や、竣工当時の旭川を知る市民が少なくなり、記憶や景色を残していくことが急務であるとし、旭橋にまつわる記録や人々の記憶、歴史を保存していく取り組みに着手した。

- 資料の保管・帳簿作成
旭橋に関する資料を保管し、目録帳簿を作成。目録はクラウド上にデータベースを作成し保管した。所蔵数は現在156点（令和6年3月末日現在）。資料は専用の物理ハードディスクおよびクラウドのサーバストレージで保管し、定期的に相互バックアップを含むメンテナンスを行う。
- ウェブプラットフォームの制作・管理
Web上に所蔵資料を公開する「旭橋アーカイブス」ページを作成。また、所蔵目録一覧をウェブプラットフォームから閲覧することができるようにした。
- 広告制作・掲載
整備した基盤を周知し、市民から新たな情報や資料の提供を呼びかけるため、地元フリーペーパーに広告を掲載した。

▶ 所蔵目録



▶ 旭橋アーカイブス



▶ 広告掲載



遺産の名称：
「旭橋」（旭川市）



「いくつもの時代と思い出を刻みながら、人々の暮らしをみつめてきた橋があります」－『旭橋』という名の豆本の書き出しである。

旭橋は道北の中心都市旭川を流れる石狩川に架かる橋で、明治25年、現在の位置に土橋が架けられたのに始まり、昭和7年、鋼鉄製のアーチ曲線を描く橋が、当時の最新技術をもって竣工した。川のまち・旭川の象徴。

2. 令和6年度北海道遺産登録20周年事業及び令和7年度ラムサール条約登録20年に向けた事業

- 実施主体：雨竜町・雨竜町観光協会
- 実施団体URL：<https://www.town.uryu.hokkaido.jp/>（雨竜町HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

令和6年度北海道遺産登録20周年・令和7年度ラムサール条約登録20年に向けて雨竜沼湿原をPRするため、広報物等の作成やイベントを実施した。

- 各種制作物や広報物の作成
制作物（ロールアップバナー、シール、ピンバッジ、カレンダー）は、町・町議会議員・商工会・観光協会などの職員がピンバッジの着用や、シールを貼付した名刺を活用し、雨竜沼湿原のPRを行った。広報物（雨竜沼湿原20年の歩み、ポスター、イベント用チラシ）は各種イベントにて展示、配布を行った。
- イベントの実施・出展
 - ①2024さっぽろオータムフェスト内
 - ②北洋大通りセンター「大通り観光プロモーション」（札幌市）
 - ③エスコンフィールドHOKKAIDO2024市町村PRブース（北広島市）
 - ④北海道遺産とこっぴちよす（雨竜町）
 - ⑤観光フォトコンテストメモリアル-北海道遺産巡回写真展同時開催-（雨竜町）
 - ⑥雨竜沼フードフェア（雨竜町）
 - ⑦北海道ヘリテージウィーク2024（札幌市）
 - ⑧アルテミス北海道雨竜デー（札幌市）



遺産の名称：
「雨竜沼湿原」
（雨竜町）



増毛山地の標高850mにあり、北海道の山地湿原の中ではもっとも大きな高層湿原。大小様々な地塘（ちとう）が700以上あり、独特の景観を見せる。湿原植物も豊富で、1964（昭和39）年に道指定天然記念物、1990（平成2）年に暑寒別・天売・焼尻国定公園特別保護地区に指定された。「雨竜沼湿原を愛する会」による活動は、湿原を未来に伝える大切さと難しさを教えてくれる。

3. 世界遺産登録3周年記念『縄文雪まつり2025』の開催

- 実施主体：北の縄文道民会議
- 実施団体URL：<https://www.jomon-do.org/>（北の縄文道民会議HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

世界遺産登録3周年を記念し、さっぽろ雪まつり期間に縄文をテーマに活動するみなさんや地域の学芸員等とともに「縄文雪まつり2025」を開催。雪まつりに訪れる世界の方々をはじめ、道内外の多くの方々に北海道遺産である「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」「オホーツク沿岸の古代遺跡群」を紹介。また、縄文関連の様々な分野の人々が一堂に集結することにより、新たな繋がりや連携が生まれた。

● 縄文雪まつり2025～縄文LOVE大集合！

日時：2月8日(土)11:00-19:00

2月9日(日)10:00-17:00

場所：チ・カ・ホ北3条交差点広場

内容：展示（3点）：中空土偶、札幌市N30遺跡土偶、動物形土製品

ぶつつづけ！縄文リレートーク（21団体）

わくわくマルシェ・ブース展開（24団体）

来場者：1万3640人（2日間）



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」

（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91カ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

4. 函館野外劇

- 実施主体：特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会
- 実施団体URL：<http://www.yagaigeki.com/>
(特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会HP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

函館野外劇の公演の中で1854年ペリー来航の箱館から明治、大正時代にかけての函館西部地区の街並みのにぎわいを函館市民ボランティアの出演により伝えている。

高田屋嘉兵衛による倉庫や港、造船業の開拓や、外国交易が盛んになり造られた各国の領事館や正教会の物語や、金森倉庫を舞台にした勝田コウの物語など、函館の歴史上の人物たちが築いた函館西部地区の街並みの歴史を、市民や国内の観光客をはじめ、海外からの観光客には通訳アプリ（UDトーク）などを利用し伝えた。

- 第36回 市民創作「函館野外劇」
期 間：7月7日（日）～
8月11日（日）
会 場：五稜郭公園一の橋広場
函館市芸術ホール
観客数：1,400人（7回公演）



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
（函館市）



函館は1859（安政6）年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。

5. 北海道遺産仙台藩白老元陣屋魅力向上事業

- 実施主体：白老町
- 実施団体URL：<https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/>（白老町HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

昭和59（1984）年10月、町政施行30周年を記念して開設した仙台藩白老元陣屋資料館は令和6（2024）年に開館40周年を迎える。これを記念し過去3カ年にわたり全道で行った陣屋跡19カ所の調査成果及び関係資料を基に「特別展」を開催。併せて陣屋跡が所在する道内各地の学芸員や郷土史研究家など14人が一堂に介したシンポジウムを実施し、「北海道遺産 仙台藩白老元陣屋」の魅力の向上を図るとともに、陣屋（陣屋跡）所在自治体間のネットワークを構築した。

- 町制施行70周年、仙台藩白老元陣屋資料館開館40周年記念特別展「蝦夷地の陣屋」

会期：令和6年7月27日（土）～8月18日（日）

【8月6日（火）：一部展示入れ替え】

会場：仙台藩白老元陣屋資料館

関連事業：

- ・ シンポジウム「全道陣屋跡の現状と課題～所在市町間における人と情報・史資料のネットワーク構築に向けて」
- ・ ギャラリートーク
- ・ 陣屋跡積極活用プログラム「陣屋の日イベント」



遺産の名称：
「仙台藩白老元陣屋」
（白老町）



江戸幕府は、嘉永6（1853）年の黒船来航により鎖国政策を断念して、下田と箱館を開港した。同時に、西欧諸国の日本進出を警戒して、東北地方の各藩に蝦夷地警備を命じた。白老元陣屋は、安政3（1858）年に仙台藩が構築し、慶応4（1868）年の戊辰戦争により撤退するまで12年間存続した。陣屋遺構には、土塁、掘割の重要遺構のほか、藩士たちが故郷から移植した赤松による歴史的景観などが比較的良好に残されている。また、当時勧請した愛宕神社や塩釜神社、御霊を祀る藩士墓地では、地域住民が1世紀以上に渡り、例大祭や供養祭を挙行している。

6. 北海道遺産「下の句かるた」の普及、競技人口拡大の宣伝活動

- 実施主体：全日本下の句歌留多協会
- 実施団体URL：<https://shimonokukaruta.com/>（全日本下の句歌留多協会HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 「下の句かるた」を伝統競技として次世代に残していくため、新型コロナウイルス感染症により中断していた「下の句かるた大会」を本格的に再開。協会及び支部が主催する全道5カ所の大会と北海道子ども会育成連合会主催の子ども大会を実施。子どもかるた大会において、参加選手及び保護者向けに下の句かるた及び北海道遺産に関するアンケートを実施した。

2024年11月 第26回全道下の句歌留多苫小牧大会
 2025年2月 第28回北海道子どもかるた大会
 2025年3月 第70回高松宮記念全道下の句歌留多旭川大会
 2025年3月 第95回全道下の句歌留多岩見沢大会
 2025年4月 第75回全日本下の句歌留多選手権大会
 2025年4月 第25回全道下の句歌留多稚内大会

- 札幌市コミュニティラジオFMアップル北海道歴史探訪「北海道遺産コーナー」に出演、下の句かるたを紹介。



遺産の名称：
「下の句かるた」
(北海道各地)



下の句かるたは、北海道に入植した人々により道内に普及した。「木の札」であることと、小倉百人一首の下の句を読み上げる独特の競技は、北海道特有の遊びの文化である。かつては、主に家庭内での楽しみだったが、近年は冬場の室内競技として愛好者が増加している。かるた競技は、厳格な雰囲気の中での対戦や緊張感の下で、礼節やチームワーク等を体験でき、世代を超えた交流や人間関係を学ぶきっかけにもなっている。大人、子ども、性別を問うことなく競技を通して楽しみながら、日本古来の文化に親しむことに加え、地域コミュニティ発展の場として意義がある。

7. 天塩川de水切り北海道大会で「天塩川と地域の共生」「地域活性化」

- 実施主体：天塩川de水切り北海道大会実行委員会
- 実施団体URL：<https://nakagawatourism.com/>（中川町観光協会HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

「天塩川de水切り～北海道大会～」は北海道遺産でもある天塩川を舞台に開催しており、今大会が第10回目という節目を迎えた。当イベントは川を身近に感じることができる環境、さらには川をはじめとする自然環境への関心が高まるきっかけづくりとして実施。大会には道内外（広島県・高知県・大阪府など）からの参加や、国外（中国）からの参加があった。

地域内外の方が天塩川に集う機会を創出することで「天塩川と地域の共生」を再認識し、また「北海道遺産天塩川」をPRするとともに中川町の地域の活性化に貢献した。

- 第10回天塩川de水切り北海道大会
大会日時：令和6年7月7日(日) 10:00～15:00
開催場所：天塩川 佐久河川敷カヌー発着場
参加者数：126名



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができ日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

8. 函館西部地区街並み保全活用プロジェクト

- 実施主体：NPO法人 はこだて街なかプロジェクト
ECO断熱改修によるカーボンニュートラル推進協議会
- 実施団体URL：<http://www.h-machi.com/>
(NPO法人はこだて街なかプロジェクトHP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 西部地区の中には住む人の個性で軒のデザインや建物の色彩が決定されているものが多く、楽しい色彩が町並みに連続している様子が、他都市にはめずらしい風景を創り出している。この風景を体験し、建物に落とし込むイメージワークショップを2日間に渡って開催。
- 1日目は、街歩きによるイメージインプットと「函館弁天町とは」のアウトプット。長年活動してきた元町倶楽部の太田誠一さんを講師に迎え、当時のダイナミックな活動やこすり出しの手法について学んだ。
- 2日目は塗装体験を実施。塗膜をはがして大正時代に7回塗り重ねられた当建物に直にふれることで、対話ができ参加者同士で歴史的な8色目を塗装するワークショップとなった。
- 函館西部地区の街並みについて、パンフレットをもとに講師が解説しながら、コンクリート建築を主に11の建造物をめぐるまち歩きと、講演と参加者との対話を交えながらのサロンを開催した。



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
(函館市)



函館は1859（安政6）年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。

9.「利尻島のルーツを巡る着地型体験プログラム実証実験」と「利尻島の漁業遺産群と生活文化」PRイベントの実施

- 実施主体：利尻しまじゅうエコミュージアム
- 実施団体URL：<https://rishiricomuseum.wixsite.com/rishiriisland/toppage>
(利尻しまじゅうエコミュージアムHP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 利尻島のルーツを巡る着地型体験プログラム実証実験
8月26～30日、札幌学院大学の学生が利尻島を訪れ、島内各所のガイドツアーや漁業体験等をして、島を周遊しながら利尻島の遺産群について学んだ。1月には札幌学院大学で今回の実証実験の活動報告会を行い、利尻島で経験したことやアンケート調査の結果、自分たちが離島とどのように関わっていけるかなどの考えを発表した。
- 「利尻島の漁業遺産群と生活文化」PRイベント
3月10～11日、大通ビッセ1階ロビーにてPRイベントを実施。パネルの展示やクイズラリー、アンケート調査、パンフレットの配布を行った。クイズラリーでは参加者から「勉強になった」等の声が寄せられた。また、アンケート調査では全体の約84%が北海道遺産を認知しており、「利尻島の漁業遺産群と生活文化」が選定されていることは全体の約40%が認知しているという結果が出た。更なる認知度向上のため、今後も継続的に活動を行い、地域の魅力の発信を続ける。



▲着地型体験プログラム実証実験



▲PRイベント（大通ビッセ1階ロビー）

遺産の名称：

「利尻島の漁業遺産群と生活文化」（利尻島）



日本最北の利尻島には、近世以降の漁業と移住の歴史を物語る漁業遺産群がある。近世には松前藩、近江商人による交易場所がおかれ、アイヌがそれを支えた。幕末以降は出稼漁民が松前や青森、秋田から渡り漁場を拓いた。その記憶は袋漕や番屋、石碑や獅子舞などに残っている。島の産物であった鱺は、北前船で本州に運ばれた。利尻島を行き来する海の道は「ヒトは北へ、モノは南へ」という交流史をつくりあげた。

10. 旧開拓使函館支庁書籍庫の公開展示

- 実施主体：一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン
- 実施団体URL：<https://worldsmeet.org/>
(一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパンHP)
- 助成額：450,000円

ー活動内容ー

函館西部地区の街並みのひとつである元町公園内に存する「旧開拓使函館支庁書籍庫」。この書籍庫は、わが国の煉瓦造りの歴史を伝える貴重な建築物として文化庁「文化遺産オンライン」等に掲載されているが、内部を知るのは一部の関係者のみであった。この書籍庫の門扉が、2024年6月に行われた第17回「はこだて国際民俗芸術祭」にあわせて開かれ、内部が公開された。今回の公開展示により、芸術祭の来場者だけではなく、より多くの市民・観光客等の関心を引き寄せることができた。

● 公開展示の内容

1. ボランティアによる書籍庫内の清掃活動
 2. 書籍庫に関するリーフレット・バナーの制作
 3. 書籍庫の様子を紹介する映像の制作
 4. 拡張現実（AR）を使った書籍庫の「新しい魅せ方」
1. 音声付き映像の展示
 2. 国際交流活動
 3. 出入口スロープ・階段の制作



遺産の名称：

「函館西部地区の街並み」
(函館市)



函館は1859（安政6）年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。

11. 北海道遺産「しかべ間歇泉」及び「道の駅しかべ間歇泉公園」PRイベント

- 実施主体：株式会社シカベンチャー
- 実施団体URL：<https://shikabe-tara.com/company> (株式会社シカベンチャーHP)
- 助成額：440,000円

ー活動内容ー

埼玉県越谷市のイオンレイクタウンにて開催された、イオンリテール株式会社主催・北海道庁後援の「2024年度北海道フェア」に出展し、来場者への説明・案内や、パンフレットの配布等によって、北海道遺産「しかべ間歇泉」及び「道の駅しかべ間歇泉公園」並びに鹿部町特産品のPRを行った。来場者からは、「以前行ったことがあり、また行きたくなった」「北海道遺産の存在を初めて知ったが、興味がわいた」等の声が寄せられた。



遺産の名称：
「しかべ間歇泉」（鹿部町）



「しかべ間歇泉」は、大正13（1924）年、温泉の掘削中に偶然発見された。この資源を活用した地域の温泉旅館は、海の恵みを楽しみつつ湯治できる場として栄え、今日の“海と温泉のまち”を築いた。町内30か所以上の泉源のなかでも、103度の高温の温泉が10分から15分間隔で約500ℓ、高さ約15mまで噴き上がる特徴があり、全国に複数ある間歇泉のなかでも、発見されてからこれまで、衰退することなく一定の噴出間隔と温泉量を噴き上げている。代々、地域住民の手により大切に守り継いできた“地域の宝”は、鹿部の大地を潤し続ける。

12. 北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト

- 実施主体：一般社団法人石狩シェアハピシティ計画
- 実施団体URL：<https://www.ishikarishc.com/>
(一般社団法人石狩シェアハピシティ計画HP)
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

開発したアレンジ石狩鍋「石狩シャケナベイバー」を活用し、特に都市部や地域の若年層をターゲットに各種プロモーションを展開。「サケの文化」の次世代伝承に向けた魅力発信を行った。

● 主なプロモーション活動

- 2024年 8月 石狩鍋聖地巡礼インバウンドモニターツアー催行（16名参加）
- 2024年10月 アレンジ石狩鍋クッキング教室開催（18名参加）
- 2024年10月 イオン発寒店における北海道遺産PRステージイベントへの登壇
- 2024年10月 石狩鍋聖地巡礼ツアー催行（7名参加、うち5名が学生）
- 2024年10月 小樽商科大学におけるプロモーション
- 2024年10月 HTB創世マルシェ出展
- 2024年11月 石狩鍋クッキング教室開催（27名参加）
- 2025年 2月 第1回鍋-1グランプリ出展



遺産の名称：
「サケの文化」
(北海道各地)



サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、2009（平成21）年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

13. 武四郎ゆかりの地を結ぶ天塩川流域連携促進プロジェクト

- 実施主体：音威子府村若手まちづくりグループnociw＊
- 実施団体URL：<https://nociw.localinfo.jp/>
(音威子府村若手まちづくりグループnociw＊HP)
- 助成額：500,000円

一活動内容一

- 2025年2月23日（日）に三重県松阪市の松浦武四郎記念館で開催の「第30回武四郎まつり」に、天塩川流域地域で観光振興を図る「道北観光連盟」と協働し、中川町・下川町・士別市・剣淵町・和寒町を含む流域近隣地域とともに出展した。「天塩川」および「松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡」に関する解説パネルの展示、PRポスターの作成掲示、新たな「天塩川」紹介のミニパンフレット作成配布を実施した。会場では、さまざまな世代の地域住民などが訪れ、松浦武四郎と天塩川それぞれに対する関心や理解も高く、各市町村等のパンフレット配布やスタッフによる解説が非常に好評であった。これまで北海道から継続して出展してきたことから広く認知が定着し、多くの来場者が訪れ商品購入と天塩川や松浦武四郎に関する問い合わせ等も多数見受けられた。
- 天塩川紹介のミニパンフレット作成は、北海道科学大学未来デザイン学部の学生に取り組みを依頼。作成過程を通じ学生からは、北海道遺産に関する情報収集や理解が深まったとの声があった。



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができ日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

14. ご当地カッター第4弾「縄文を通じて地域を知る！縄文かるた」を活用したかるた大会の実施

- 実施主体：縄文DOHNAN プロジェクト
- 実施団体URL：<https://jomon-dohnan.com/>（縄文DOHNANプロジェクトHP）
- 助成額：450,000円

ー活動内容ー

- 令和5年度助成活動で作成した、各市町村のご当地カッターとその地域の情報を掲載した縄文かるたを活用し、令和6年3月16日にかるた大会を実施。事前申し込み、当日参加者を含め約50名の小学生らが参加した。かるた取りを通して世界文化遺産「北海道・北東北の縄文文化」について楽しく学んだ。
- オリジナルクリアファイルを作成し、当日参加の子供たちへ記念品として配布したほか、道南地域の小学校に入学する新1年生へ送呈した。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」
（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91カ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

15. 東アジア雪合戦普及活動事業

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会
- 実施団体URL：<https://www.yukigassen.jp/>
(昭和新山国際雪合戦実行委員会HP)
- 助成額：400,000円

一活動内容一

雪合戦を世界に普及させ、遺産を後世に受け継ぎ、韓国等東アジアの降雪のある国々に雪合戦連盟を設立してもらうため、「yukigassen」の普及活動を行った。

- 1月に韓国華川郡より大会開催に向けて本線視察へ韓国イベント会社関係者7名を招待。氷点下10度のパウダースノーにおいて雪玉を安全かつ適度な硬さに固める技術のほか、大会運営のポイントについて視察団を2日間にわたり案内した。
- 団長は本事業を推進する要人であり、韓国でも雪合戦普及を自治体や華川郡長に働きかけを行っている。実際に試合体験や雪球製造場で実物に触れ、韓国内での普及の約束を取り付けた。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦大会」(壮瞥町)



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

16.「根釧台地の格子状防風林」周知事業

- 実施主体：中標津町
- 実施団体URL：<https://www.nakashibetsu.jp/>（中標津町HP）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

北海道遺産である「根釧台地の格子状防風林」を望む標高270mの開陽台には、観光客をはじめライダーの聖地として認知されていることから、夏季を中心に道内外から多くの人々が訪れている。雄大な景色を見下ろせる場所に、「格子状防風林」が北海道遺産であることを知らせる看板とともに、北海道開拓の歴史と、格子状防風林と本町の基幹産業である酪農業にとっての重要性を象徴するモニュメントとして親子牛の模型を設置していたが、経年劣化により一部塗膜が剥離していたため、修繕を行った。



▲ 着工前



▶ 修繕後



遺産の名称：

「根釧台地の格子状防風林」（中標津町など）



中標津町、別海町、標津町、標茶町にまたがる格子状防風林は、スペースシャトルからも撮影されたように、そのスケールにおいても地球規模的な、北海道ならではの雄大なもの。幅180m、総延長648kmの林帯は、防風効果だけではなく野生動物のすみかや移動の通路としての機能も果たしている。開拓時代の植民地区画を示す歴史的意義も持つ。

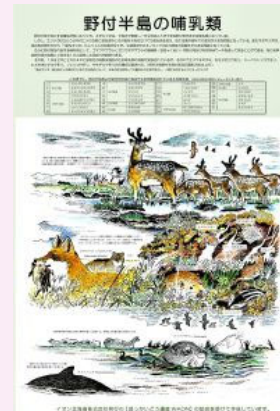
17. 野付半島の代表的な「植物」「哺乳類」「鳥類」の常設展示パネルの作成

- 実施主体：野付半島自然環境保全協会
- 実施団体URL：<https://notsuke.jp/> (野付半島ネイチャーセンターHP)
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

野付半島自然環境保全協会では、野付半島ネイチャーセンターを訪れる多くの方々（年間約15万人）に野付半島の自然環境の魅力や価値を伝える為、3年計画で常設展示パネルの更新を実施してきた。令和4年度は「野付半島の昆虫類」、令和5年度は「野付半島の希少な生き物、半島の成り立ち、半島の変遷（地形）」の常設展示パネルを作成し、多くの来訪者の啓発に努めてきた。

今年度「植物」「哺乳類」「鳥類」の常設展示パネル3枚を作成したことにより、2階の常設展示パネルの更新を完了することができた。



遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

18. (北海道遺産協議会選定) 遺産を訪ねるツアー 《なかなか訪れることの少ないところの貴重遺産に出会うツアー》

- 実施主体：北海道中央バス株式会社
- 実施団体URL：<https://www.chuo-bus.co.jp/>（北海道中央バス株式会社HP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 第39回歌志内なまはげ祭りと炭鉱の歴史を学ぶ
(実施日：2月2日(日)(日帰り) 参加者：21人)
歌志内市郷土館ゆめつむぎを会場に炭鉱のまちを学ぶツアーを実施。施設職員のガイドで学習後、映像で「うたしないしの炭鉱の生活～昭和の暮らし」を鑑賞し、炭鉱長屋や近所の子どもたちの生活場面、炭鉱マンの仕事の姿等に懐かしい記憶をたどった。夕方は炭鉱料理「なんこ鍋」を夕食に、その後温泉入浴を体験した。これまで炭鉱現場を見学するツアーは多くあったが、炭鉱のまちの生活を丸ごと体験するツアーは稀で、参加者の評価も高かった。
- 感動の流氷体験ツアー国宝・北海道遺産もめぐる
(実施日：2月8日(土)～10日(月) 参加者：17人)
ツアー期間中は高波で流氷砕氷船は欠航となった。オホーツク沿岸の古代遺跡群（モヨロ貝塚館）、オホーツク流氷館、北方民族博物館、博物館網走監獄等を見学し、遠軽町の埋蔵文化財センターでは国宝の黒曜石を見学。地元施設学芸員等のガイドによる鑑賞ができたことで、参加者の満足度評価の高い結果となった。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」
(空知地域)、他



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

19. 鉄道施設への道案内表示の制作

- 実施主体：NPO法人北海道鉄道文化保存会
- 実施団体URL：<http://www.tetsudo.in/>（NPO法人北海道鉄道文化保存会HP）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

「小樽の鉄道遺産」の一つである「手宮の鉄道施設」への案内として、小樽の中心部「小樽市美術館」から、手宮に位置する「小樽市総合博物館・鉄道施設」まで、旧国鉄手宮線沿線沿いの距離1.6kmを6ヵ所に分け、道案内表示を設置。鉄道の景観を損なわないような「距離標」デザインとした。



遺産の名称：
「小樽の鉄道遺産」
(小樽市)



明治13年11月28日、小樽手宮一札幌間に、アメリカ人技師クロフォードの指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港一鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の発展を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。

20. 増毛山道の歴史や遺産の広報・ツアー・維持管理活動

- 実施主体：特定非営利活動法人 増毛山道の会
- 実施団体URL：<http://www.kosugi-sp.jp/sando/top.html>
(NPO法人増毛山道の会HP)
- 助成額：300,000円

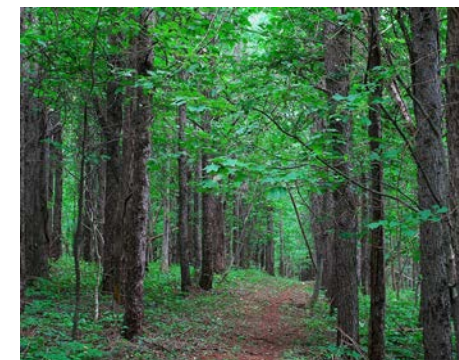
ー活動内容ー

- 留萌地方は令和6年冬に全国放映規模の豪雪に見舞われ、標高600mに設置した木製ルート案内標識6ヵ所が冰雪の災害で全壊。作業道と交叉する場所で、迷い込むと遭難の可能性が高いため、鉄製の標識台を作製し恒久的標識に更新する必要があり、雄冬山山頂方向T字分岐（標高1,000m）にも同耐雪仕様の標識を設置した。
- 標識文字の視認性を保つために必要な鋼製枠の錆止めが必要となったことや、今年の大雪で既存標識が崩壊したことを受け、構造上強度を増す必要があり、7ヵ所設置予定のところ、予算超過により6ヵ所の施工へ変更した。



遺産の名称：

「増毛山道と濃昼山道」
(増毛町、石狩市)



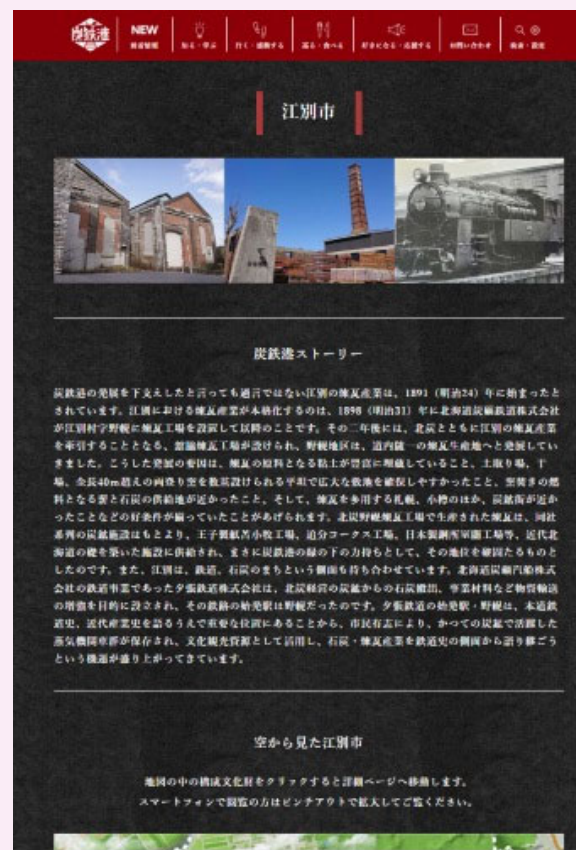
開削から160年余の歳月を経て、3mを越すクマイザサの中に埋没し、記憶の彼方からも消え去ろうとしていた「増毛山道と濃昼山道」。近世北海道の開拓遺産として、大きな意義があると確信した地域住民を中心に、復元行動を開始して約10年、遂に2016年に全線復元した。近代化に果たした歴史的役割や機能を体感できる遺構。

21. 日本遺産「炭鉄港」構成文化財 江別市追加に係るPRツールの整備

- 実施主体：炭鉄港推進協議会
- 実施団体URL：<https://3city.net/>（炭鉄港推進協議会HP）
- 助成額：278,300円

一活動内容一

令和6年6月に江別のれんが産業が日本遺産「炭鉄港」のストーリー及び構成文化財に追加され、そのストーリーや文化財には、北海道遺産「江別のれんが」に係るストーリーや施設も含まれた。これらのストーリー及び文化財に係る歴史や炭鉄港地域への周遊促進を図るため、WEBページを作成した。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

22. 北海道遺産「モール温泉」をPRするためのパンフレット作り

- 実施主体：一般社団法人音更町十勝川温泉観光協会
- 実施団体URL：<https://www.tokachigawa.net/>
(一般社団法人音更町十勝川温泉観光協会HP)
- 助成額：130,000円

一活動内容一

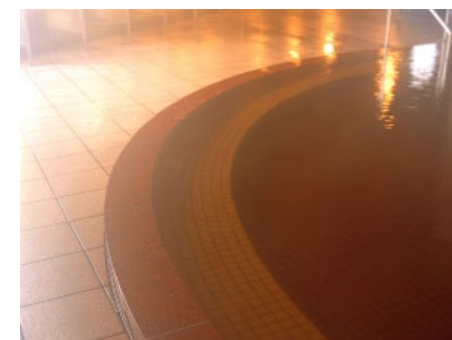
北海道遺産「モール温泉」をPRするため、音更町+十勝川温泉の宿泊施設の紹介及び世界的にも珍しいモールの湯についての特性や由来をパンフレットにまとめ、インバウンドの誘致キャンペーン及びイベントにて配布を行った。



▲ パンフレットは英語版とタイ語版を作成



遺産の名称：
「モール温泉」
(音更町など)



モール温泉は、泥炭を通して湧出するもので独特の黒っぽい湯が特徴。主成分は植物性腐食質で、鉱物成分より植物成分が多いのが他の温泉との違い。また、熱源は地熱に加えて、地下の植物の堆積物による発酵熱と考えられている。モール温泉は日本各地で湧出しているが、北海道では十勝や石狩平野、豊富町などで見られる。十勝地域では、モール温泉を活かした商品開発などにも力を入れている。